

我が国の小型まぐろはえ縄漁船に適した海鳥混獲回避装置の実証

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2009977

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



我が国の小型まぐろはえ縄漁船に適した海鳥混獲回避装置の実証

国際水産資源研究所 かつお・まぐろ資源部 混獲生物グループ

研究の背景・目的

1. まぐろはえ縄漁業において海鳥の偶発的捕獲（混獲）が世界的に問題となっており、各地域漁業管理機関では海鳥の混獲を削減する保存管理措置が導入され、我が国も混獲を回避する技術の開発やその効果の検証について積極的に取り組んでいます。
2. 中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）の管轄水域の一部である北太平洋では、船体長 24m 以下の小型船（我が国では 20t 未満船）が保存管理措置の適用除外となっていますが、近年、小型船にも適用すべきとの議論が生じてきています。
3. 北太平洋は我が国にとって重要な漁場であり、安全で効果的な小型船に適した混獲回避技術の開発が非常に重要です。

研究成果

1. 小型船が混獲回避技術を使用しているかどうか、使用している場合、どのような技術であるかについてアンケート調査を行った結果、すべてが海鳥接近抑止のための吹き流し装置（トリライン）を使用していました。また、仕様については大別すると、ラインにオドシを付けている船と、オドシを付けていない船に分かれました（図 1）。

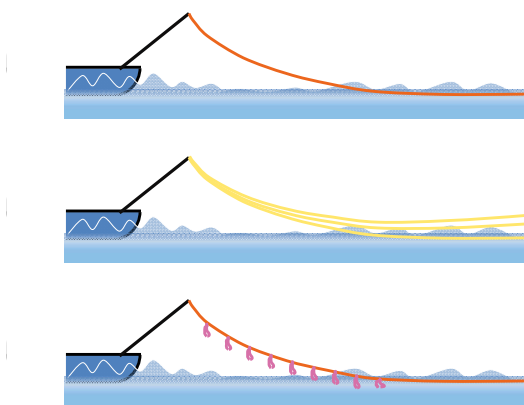


図 1. 小型船が主に使用しているトリライン（上からオドシ無しトリライン、オドシ無しポリプロピレンバンドライン、オドシ付トリライン）

2. 2015年2～3月に小型はえ縄船で18回操業を行い、各操業において3つの実験区を設定し、それぞれでオドシ無しトリライン（ロープのみ）使用、3本束のポ

リプロピレンバンドライン（荷ひも）使用、回避措置無し、とし海鳥の餌取り行動や混獲に関する情報を収集しました。また、WCPFCの海鳥保存管理措置に規定されている大型船用トリライン（WCPFC軽量トリライン）も試験的に使用し、その操作性や安全性に関しても情報収集しました。これらの結果、オドシ無しトリラインもポリプロピレンバンドラインも回避措置無しに比べ、海鳥の餌取り行動や混獲を大幅に減らす効果があることが明らかになりました（図 2）。

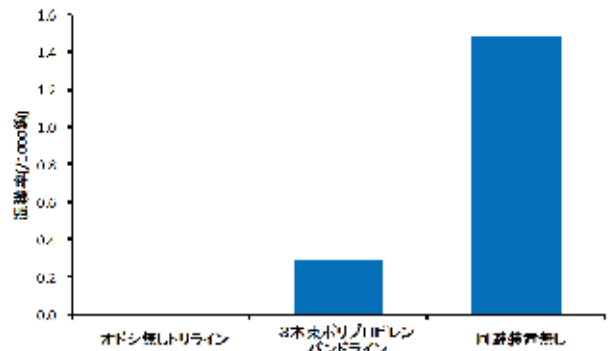


図 2. オドシ無しトリライン、3本束ポリプロピレンバンドライン、回避措置無し、における海鳥の混獲率

3. 小型船では大型船と異なりトリライン設置場所が低く、ラインと海面との隙間が少なくなるため、オドシが無くても効果が高いと考えられました。また、試験的に使用した WCPFC の大型船用トリラインでは回避効果はあるものの、投縄中に漁具に絡むトラブルが発生しました。回避効果や安全性、操作性を考慮すると、オドシ無しトリラインやポリプロピレンバンドラインが小型船に適したトリラインであることが示唆されました。

波及効果

1. 小型船ではオドシが無いタイプのトリラインでも海鳥の混獲回避に効果があることが明らかになり、漁具にも絡みにくく安全面でも有効な技術となることが期待されます。
2. 本研究で得られた成果をWCPFC科学委員会、技術遵守委員会で報告した結果、海鳥保存管理措置のトリライン仕様に適用されることになり、我が国の漁業者にとって現場に即した措置の導入が実現しました。